明慧（ミンフイ）ダイジェスト

JP.MINGHUI.ORG　第18号　2024年11月2日

広島「ぺあせろぺ」ステージで功法実演

広島の法輪功学習者（以下、学習者）は10月6日、広島城護国神社前広場で開催された国際交流フェスティバル「ぺあせろぺ2024」に参加した。学習者はステージ出演やブース出店を通じて法輪功を紹介し、多くの人がブースを訪れ法輪功について尋ね、また支持を表す人もいた。

当日は、11団体がステージに出演し、25団体がブースを設置した。学習者はステージで法輪功の五式の功法を実演し、腰太鼓を演奏した。また、ブースでは煉功を行い、資料を配布しながら法輪功を紹介した。来場者の中には、「水辺のコンサートで功法の実演を見たことがある」や、「ひろしまフラワーフェスティバルで法輪功チームを見たことがある」と言う人もおり、親しみを感じていたようだ。

広島市議会議員で、今回のイベント実行委員会の代表である山本昌宏氏は、イベント当日、学習者に「何か用事があれば、市議会に来てください。事務局に電話をするときは、法輪功と伝えてください」と話した。

■ステージで法輪功の五式の功法を実演する学習者

イベントに参加する他の団体も法輪功に関心

今回のイベントでは、同じく出店した一般社団法人マルチ放送局ええじゃんのメンバーが法輪功のブースを訪れ、取材をした。法輪功についての紹介をライブ配信し、制作した番組をSNSで発信するという。

マルチ放送局の竹本宗文さんは、30年以上メディアに携わっている写真家でもある。アメリカでも学習者の活動を見たことがあり、平和公園付近で法輪功への迫害を制止するために署名したことがあるという。

各界の人々が法輪功を支持

法輪功ブースの近くで出店している諏訪さんは、法輪功の文字を見て、こう尋ねた。「中国では法輪功が非常に残酷な迫害を受けていて、生きたまま強制的に臓器を摘出されていることまで知っています。あなたたちはその法輪功ですか？」

学習者が「そうです」と答えると、諏訪さんは自身の経験を語った。自宅近くに住む中国人との考え方に大きな違いがあることに驚き、疑問を持ち始めたという。そこで彼は調べ始め、その過程で中国共産党（以下、中共）による法輪功への迫害や、中共の支配下にある国民が受ける洗脳教育について知り、さらに驚いたそうだ。

諏訪さんは「国民への弾圧は中共の本質です。中共の思想と異なるすべてのものを潰そうとしています」と語り、最後にその場にいた中国出身の学習者に「これからも頑張ってください。皆さんはたまに故郷に帰りたいでしょう？　しかし、中共が滅びるまで帰らない方が良いです」と言った。

ペルーで「真善忍国際美術展」開催　鑑賞者が感動

ペルーの法輪功学習者は9月28日と29日、首都リマの海岸近くにあるマグダレナ・デル・マール地区で、「真善忍国際美術展」（以下、美術展）を開催した。鑑賞者は「この美術展はとても印象的で、深く感動した」と語った。

「正義が中国で迫害されている人々の身に訪れますように」

美術展の開幕に出席したマグダレナ・デル・マール市の社会サービス副主管ジェニー・オチョア・ロハス氏が、次のように述べた。「文化交流は当部署の目標です。このイベントは非常に重要であり、美術展は人々に自由を大切にすることを教えています」。また、同氏は中国で迫害を受けている人々に正義が一日も早く訪れることを願っていると述べた。

■28日と29日に開催された美術展

ロハスさんは開幕の挨拶で、展示された絵画の美しさと、内に秘められたメッセージを称賛した。真・善・忍を修めることは必要だと強調し、美術展の主催者に謝意を表した。

法輪功学習者のルイーサさんは、挨拶で美術展の背景、法輪功の基本的な情報、さらに、過去25年間にわたり中国共産党による法輪功学習者への残酷な迫害について説明した。

首都にある大学の教授であるセダノ・メサ氏は、この美術展について、非凡で素晴らしいと称賛した。「人間の生命における真の精神的意味、生命や思想に関するメッセージ、そして人類の進歩、多くの中国文化を知ることができました」。同教授は学生たちにこの美術展を鑑賞するよう伝え、「すべての人が鑑賞すべきだ」と話した。

とても重要な絵画、これは素晴らしい体験

鑑賞者のズレマさんは、絵画を鑑賞した後、「これは素晴らしい体験でした。美しく、非常に重要な絵画を鑑賞できるだけでなく、心身ともに休める環境で、とても落ち着いた気持ちになりました。同時に、少し悲しさも感じました」と語った。

中国人の末裔であるパラシオスさんは、家族がペルーに移住する前は、「劉」という名字でしたが、後に改名したという。絵画に自分の祖先の歴史、文化、芸術が記されていることに驚きを感じ、法輪大法が何を意味するのかを尋ねた。迫害の絵画などは人々に啓発を与えると話した。

多くのペルー人は、「これは偉大な学問であり、真の中国に通じる窓、苦しみと悲しみを映し出す窓です。苦しむ人々に通じる橋でもあり、私たちは精神を磨かなければなりません。落胆せず、希望を失ってはいけないのです」と語った。

トロントの法輪功学習者が集団煉功
「とてもポジティブなエネルギー」

カナダ・トロント市の学習者は毎月第一週目の週末に、クイーンズパークで集団煉功をしている。ゆったりとした煉功動作と穏やかな煉功音楽は、市民や観光客を引き付けている。

トロント大学の研究員であるマリオーラさんは、法輪功の理念「真・善・忍」について次のように述べた。「誠実さを保ち、人に優しさを示し、互いに寛容であること。この理念に私も賛同します」。また、個人の健康にも有益だと論じた。「（法輪功がもたらす）心理的な健康と安定によって、身体を癒すこともできます」と述べた。

■毎月第一週末にクイーンズパークで行われている集団煉功

会社員のカトリーナさんは「『真・善・忍』は非常に重要だと思います。現代のこの複雑な世界において、人々はこの理念に遵守すべきだと思います」と話した。

18歳のニールスさんは法輪功のリーフレットを受け取り、「とてもポジティブなエネルギーを感じます。今日私がここに来たのは、法輪大法に出会うためだったのですね」「李先生の本をネットで読み、功法も学びたいです」と言った。

在外中国人「共産党は嫌い、とても悪い」

学習者は、中国人夫婦に法輪大法が世界各国で愛好されていると説明した。夫は最初ためらっていたが、偽りの「天安門焼身自殺」事件について知っていると打ち明けた。そして、「私は共産党が嫌いです。非常に悪いです」と夫は付け加えた。

学習者はこの夫婦に、共産党組織である共青団や少年先鋒隊から離脱する「三退」を勧めた。妻は快く同意したが、夫は躊躇した。

また、学習者は「本心から『同意する』と言ってはじめて脱退することになります」と言うと、夫は「同意します」と宣言した。

夫婦が去る時、学習者は「法輪大法は素晴らしい」と覚えてほしいと伝えると、夫婦はそれを受け入れた。

NZ「ブロッサム・パレード」　法輪功が最優秀賞を受賞

ニュージーランドの北島の東海岸に位置するヘイスティングスは世界有数のワイン生産地として知られる。9月21日には、春の到来を祝う「ブロッサム・パレード」が開催された。学習者は招待され参加し最優秀賞を受賞した。

ヘイスティングスの中心街はパレードを楽しもうと数万人の人々が訪れた。青と白の民族衣装を身にまとった天国楽団が演奏する荘厳な音楽は響き渡り、龍の舞が披露されると、観客から拍手が送られた。フロート車に中国語と英語で印刷された法輪功の理念「真・善・忍」は、学習者が地域社会との分かち合いを示している。

市長「学習者のパレードへの参加を歓迎する」

ヘイスティングス市のサンドラ・ヘイズルハースト市長は、学習者に「今日、ヘイスティングスに来てくれてとてもうれしい。あなた方のパレードへの参加を歓迎します」と述べた。

リン・マッキーさんは26年間パレードのチーフディレクターを務めている。マッキーさんは「法輪大法の理念はとても素晴らしいと思います。誰もがこれらの価値観（真・善・忍）を必要としています。なぜならこの世界では、平和と平穏を内面的に見つけるのは難しいからです」と語った。

■「ブロッサム・パレード」で法輪功チームは最優秀賞を受賞

芸術家が真・善・忍の価値観を高く評価

芸術家のネフィさんは法輪功の真・善・忍の価値観を高く評価している。彼女は「真・善・忍は私たちの社会にとってとても有益だと思います」と述べた。

カトリック教徒であるハートさんは法輪大法の価値観に強く賛同している。「特に若い人々にこれらの価値観をもっと知ってほしいと思います。健全な社会とはトラブルのない社会だと思います。これらの価値観が守られていれば、人々はトラブルに遭うことはありません」と語った。

余命5年のガン患者

苦境の中で法輪功に出会う

今年71歳の望月良子さんは、日本に住む山東省出身の法輪功学者です。がん治療を日本で受けていましたが、修煉によって健康を取り戻しました。いまも働き、日本に貢献したいとして、医療費補助の返金を国に申請しています。

望月さんは40歳代まで中国で過ごし、左官や教師、飲食店など様々な職場で懸命に働いていました。1992年、家族で居住まいを日本に移しました。しかし、不幸な知らせが突如として届きます。大病を患っていることが発覚したのです。

「腸のガンです。食べたいものを食べてください。長くても余命5年です」と、医師から宣告されました。突然の告知に、家族は不幸のどん底に突き落とされた様な気分になりました。

■望月さんご本人

「毎日のように輸血して、目の前に死が迫っていると感じていました。薬以外には何も口にできませんでした。肝臓も悪く、ほとんど眠れず、身体に良いところは一つもありませんでした」と、当時を振り返りました。

日本に住まいを移してから5年後の1997年の年末のことです。望月さんは法輪功に出会い、その運命が変わります。法輪功学習者から書籍『大圓満法』と、気功動作を習うビデオテープを購入しました。

美しい動作と音楽に心ひかれて

ビデオを見ると、美しい音楽と穏やかな動作に心ひかれ、おもわず動作を真似しました。不思議なことに、その夜は久しぶりにぐっすりと眠れました。それからは煉功が日課となり、次第に食事もとれ、家事もこなせるようになりました。

いつのまにか、ガンが消えただけでなく、神経性頭痛、心臓病、C型肝炎、胃の病気も良くなっていたのです。これを機に、望月さんは心を入れて学法し、修煉の道を歩み始めることになりました。

望月さんは、こう語っています。「私は本当に幸運です。私には師父がいて、大法があります。あれから27年が過ぎましたが、今はとても健康で、幸せです。法輪功は病気治療と健康保持に効果があるだけでなく、人をより良い人に変え、返本帰真まで導くものです。私は何よりもこのことを世の人々に伝えたいです」

米大手企業のマネージャー

毎日の気功で「心を充電する」

米国の多国籍企業の台湾支社マネージャーとして、林姵靖（りん・はいせい）さんは忙しい日々を過ごしています。どんなに難しい問題にあたっても、笑顔を絶やしません。

「真、善、忍の基準で人に接し、毎日法を学び煉功をすることで、知恵ももたらされ、体力もつくのです」と姵靖さんは語っています。

姵靖さんは、子供時代に法輪大法と貴重な縁があったのですが、徐々に遠ざかっていました。成人となり体調を崩したことで、再び修煉を始めたのです。

「当時は深刻な便秘で、薬を飲まなければなりませんでした」。ある日、姵靖さんは突然、姉がよく口にしていた法輪大法のことを思い出しました。

「修煉はとても良いもので、以前は大好きだったのに、どうして続けないのだろう」と思い直し、2019年、インターネットから『轉法輪』をダウンロードして読み、修煉に戻ることにしたのです。

複数の学習者と学法を行うグループ学法の会に久しぶりに参加した時、平和で穏やかな空間だと感じだそうです。それから間もなく、姵靖さんの慢性的な便秘は治りました。

多忙な仕事と向き合う

近年、姵靖さんは米国大手企業の台湾支社でマーケティングマネージャーを担当しています。台湾中の主要なデパートに窓口を構え、オンライン販売を行い、10数店舗の小売店を展開しています。仕事量は多く、責任からくるプレッシャーも相当なものがあります。

修煉に戻る前は、毎日イライラして、疲れていました。しかし、今は忙しくとも心は穏やかでいられるようになりました。

「毎日、目が覚めるとすぐに煉功場に行って朝煉をし、毎晩学法しています。私にとって、これは最高の『充電』なのです。前向きなエネルギーに満ち溢れ、内面がとても落ち着いているので、どんな状況にもいつでも対応できます」

何か問題が起きたとき、姵靖さんは師父の教えを思い出します。それは、自分の気分の変化を見て、一歩下がってゆっくりと考え、心を静めて対処法や対応策を考えなさいという教えです。

「問題にあった時、私は自分が修煉者であり、すべて真、善、忍の原則に従って接しなければならないと思い直します。すると全ては解決できるようになるのです。これは法輪大法を修煉することによって得た、福報と向上なのです」

■林姵靖さんご本人

法輪功を学ぶには

法輪功（ファールンゴン）は法輪大法（ファールンダーファ）とも呼ばれます。1992年に李洪志氏により伝え出された、心身を鍛える気功修煉です。法輪功の修煉は、「真・善・忍」を理念とし、日々の生活の中で自らを高め、家庭や社会の安定と、人々の健康増進、道徳水準の向上にも、計り知れない効果をもたらします。

■法輪功の功法は、公園や公民館などで無料で学べる

一、修煉とは

法輪功は、心性を高める「修」と煉功をする「煉」の2つが含まれます。

1、学法

法輪功の主要な著作『轉法輪』には、修煉に必要な法理がすべて含まれています。『轉法輪』を繰り返し読むことで、深い内包を悟ることができます。

法輪功学習者（以下、学習者）は普段、法輪功の著作を学習することを「学法」と呼んでいます。学法には、注意すべきことが2点あります。

1）『轉法輪』を読む時、はじめから終わりまで通読すべきで、一部分だけを選んで読んではいけません。途中で中断しても構いませんが、書かれている順序どおりに読むべきです。

2）学法の時、いかなる求める心もあってはなりません。心を落ち着かせて繰り返し通読してこそ、「求めずとも自ずと得る」ことができるのです。

学習者は、通読中に生じた疑問への解答が、後ろの章で得られることがあると体験しています。また再び通読することで、また新たな疑問が生じ、また解答が得られます。

2、煉功

法輪功は煉功と呼ばれる5セットの功法があります。李洪志先生が書かれた『法輪大法大圓満法』には功法の特長、写真と動作の説明、付録が含まれます。

二、学ぶには

入門書の『法輪功』または『轉法輪』を通読するか、9日間のビデオ学習講座に参加して、李洪志先生の説法の録画を順序どおり見ます。

『轉法輪』は「論語」と九講の説法から構成され、説法の録画・録音も同じく九講です。

世界中の学習者たちがボランティアで教える煉功場（気功教室）があります。最寄りの煉功場を探し、「9日間のセミナー」が開かれていれば九講の説法を全て聞き、5セットの功法を学ぶことができます。

煉功場では皆で煉功し、正しい動作を学び、学習者が間違いを直してくれるため、効果が高まります。続けて参加することで惰性を克服しやすくなります。

周りに煉功場がない方は、李洪志先生が功法を教えている録画ビデオを見ながら独学することができます。毎日煉功する時、法輪功の煉功音楽に合わせて煉功しましょう。

また、インターネットで、オンラインレッスンを無料で受講することもできます。煉功の動作を学ぶだけでなく、書籍を一緒に読むグループもあります。

初めての方へ：

法輪功の活動はすべて学習者たちがボランティアで無料で行っています。ビデオ学習講座、功法レッスン、修煉体験交流会など、修煉の純正さを保つために、料金を取る行為を絶対に禁じています。もし有料のものがあれば、それは決して法輪功が開催したものではありません。

5セットの煉功動作

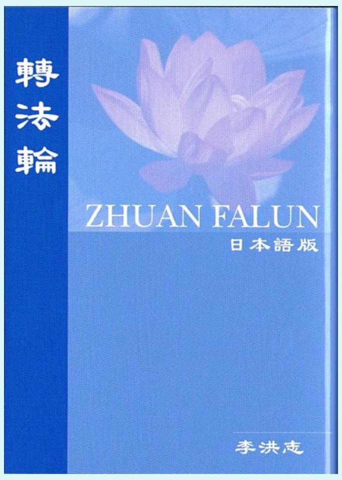
①佛展千手法　②法輪椿法　③貫通両極法　④法輪周天法　⑤神通加持法

オンラインレッスン
各地の無料気功教室

『法輪功』（ファールンゴン）

1993年に中国で発売され反響を呼んだ話題の一冊。心身ともに健康になる中国伝統の気功修煉法「法輪功」の入門書。

無料で読む　書籍を購入



『轉法輪』（ジュワンファールン）

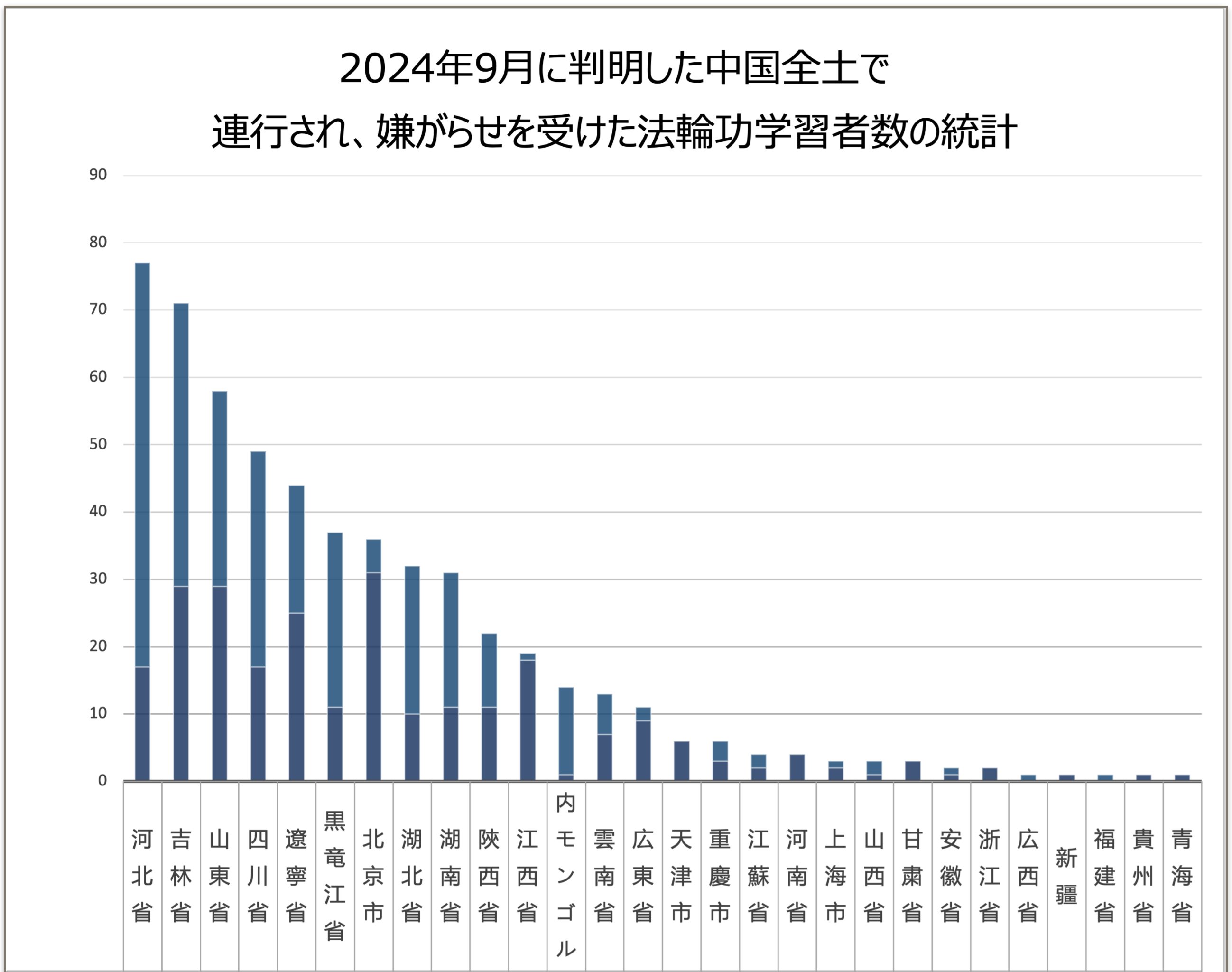
1996年に中国北京でベストセラーとなった。「真・善・忍」を理念とする法輪功の修煉を、体系的に指導する最も主要な書籍。

無料で読む　書籍を購入

552人の法輪功学習者が不当に連行または嫌がらせ受けたと判明

明慧ネットへの報告によると、2024年9月、少なくとも552人の法輪功学習者（以下、学習者）が不当に連行または嫌がらせを受けたと判明した（253人が連行、299人が嫌がらせ）。また、60歳以上の学習者は少なくとも109人で、3人の学習者が洗脳センターに連行されて迫害を受けた。

連行の件数が多かったのは、北京市31件、山東省29件、吉林省27件、遼寧省25件、江西省18件。嫌がらせの件数が多かったのは、河北省60件、吉林省42件、四川省32件、山東省25件、黒龍江省26件であった。



	河北省	吉林省	山東省	四川省	遼寧省	黒竜江省	北京市	湖北省	湖南省	陝西省	江西省	内モンゴル	雲南省	広東省	天津市	重慶市	江蘇省	河南省	上海市	山西省	甘粛省	安徽省	浙江省	広西省	新疆	福建省	貴州省	青海省
嫌がらせ	60	42	29	32	19	26	5	22	20	11	1	13	6	2		3	2		1	2		1		1		1		
連行	17	29	29	17	25	11	31	10	11	11	18	1	7	9	6	3	2	4	2	1	3	1	2		1		1	1

北京の鄭金志さん（82歳）が拘禁

北京市西城区の学習者・鄭金志さん（82歳女性）は先日、西城区裁判所に不当判決を言い渡され、北京市女子刑務所に移送された。中国共産党当局は、鄭さんが高齢で生活の介助が必要であるにもかかわらず、強制的に刑務所に収容した。

鄭さんは1994年に法輪功を学び始め、短期間で五十肩、結腸炎、婦人病、頻脈、歯周炎、腰痛などの病気が治った。健康を取り戻しただけでなく、良い人になる道理も学び、嫌なことにも正しく対処できるようになった。

2000年3月、鄭さんは実名で全国人民代表大会宛に手紙を書き、法輪功の無罪、法輪功の書籍の出版許可、学習者に法輪功を学ぶ環境を与えることを要請した。4～5月のある朝7時頃、阜外派出所の警官らは鄭さんを強制的に連行しようとしたが、鄭さんの抵抗でできなかった。

2002年の中共第16回党大会の際、鄭さんは身柄を拘束され、家宅捜索された。そして大会の終了後、2年間の労働教養処分と書かれた書類を渡されたが、高血圧のために入所できなかった。2003年3月19日の午後、鄭さんは「治療のための保釈」とされ、帰宅した。同年6月、鄭さんは、翌日に洗脳センターに送られる旨を通知された。迫害から免れるため、家を離れるしかなかった。

2011年11月、借家に住んでいた鄭さんは、阜外派出所の警官らに連行され、留置場に送られたが、健康上の問題が基準に達していないとの理由で入所できなかった。その後、公安病院に送られ、無理やり採血された後、立つことも歩くこともできなくなった。警官らは車椅子に座った鄭さんを連れて、毎日注射を受けさせたが、3日目には食事もとれなくなり、点滴することになった。8日目には集中治療室に収容され、2度気を失った。15日目、2人に支えられ、救急医にも付き添われ、鄭さんは病院の裏口から家に戻った。しかし、帰宅後も警官は嫌がらせを続けた。

日本在住学習者の母・王乖彦さんが不当裁判に

陝西省宝鶏市在住の学習者・王乖彦（おう かいげん）さん（61歳女性）は、2024年9月25日朝、金台区裁判所で不当な裁判を受けた。王さんは弁護士と共に、無罪を主張した。

王さんは、職業訓練校で教師を務めていた。そして法輪功の「真・善・忍」の理念に基づいて自分を律していたところ、産後の病気が治り、それから26年間、薬を一切服用していなかった。

■中国大使館前で公開抗議文を読み上げる張一文さん（中央）

強制連行

2024年4月11日、王さんは、他の学習者の家にいたところを警官に強制連行され、寶雞市第二留置場に拘禁された。釈放を求めた家族は、面会も許されなかった。

過去に受けた迫害

2001年8月、王さんは中国共産党（以下、中共）当局に連行された後、3年間の強制労働を言い渡された。

2009年7月8日に宝鶏市高新公安局の警官らに連行された後、懲役6年の不当判決を言い渡された。

2016年6月20日、王さんは「法輪大法は素晴らしい」、「真・善・忍は素晴らしい」と書かれたステッカーを貼っていたところを通報され、神龍派出所の警官らに連行された。

その後、王さんは刑事拘留され、宝鶏市第二拘置所に送られた。そして10月27日、王さんは宝鶏市渭浜区（いひんく）裁判所で、懲役1年の判決を受けた。

娘・張一文さんの訴え

2024年5月28日、日本在住の学習者・張一文さんは、日本と国際社会の心ある人々に、母親を救出するための協力を求め、中国政府に対して法輪功への迫害の停止を要請した。張さんは、学習者は中共の弾圧に屈することなく信念を貫き続けており、法輪功が精神と身体の健康に寄与することを強調した。そして、公開抗議文を読み上げた後、中国大使館のポストに投函した。

「善良な中国」と「邪悪な中共」

中国共産党（以下、中共）による法輪功学習者（以下、学習者）の生体臓器収奪は、世界中で非難を浴びている。今年6月25日には米国下院が『法輪功保護法案』を可決したが、これは中共に対して強制臓器収奪の犯罪を直ちに停止するよう求め、そうした行為に関与した者に制裁を科す。この法案可決は、台湾社会にも大きな反響を引き起こしている。

■台湾の人権団体理事長・楊憲宏氏

■台湾の人権団体理事長・許凱雄氏

「善良な中国」と「邪悪な中共」

台湾の人権団体「中国人の人権を守る連盟」の理事長である楊憲宏氏は、次のように述べている。「中国の問題について話す際、『善良な中国』と『邪悪な中共』を区別する必要があります。『善良な中国』とは、美徳を保ち伝統的な価値を重んじる人々を指し、（一つには）法輪功グループです。法輪功が中共から迫害を受けていることも、その証拠です」

また「邪悪な中共」には、中共政権だけでなく、国内外で中共に迎合し助ける共犯者も含まれるとし、それらは目先の利益を優先し、良心や正義を欠いているという。

かつての江沢民元国家主席が学習者の迫害を命じた結果、「臓器移植市場の需要を満たすために、学習者や漢民族の若者、ウイグルの強制収容所が臓器の提供源とされ、生きたまま（強制的に）臓器を摘出される」と楊氏はいう。

そして米国下院が可決した『法輪功保護法案』について「これは中共が世界に災いをもたらすことを防ぐための目覚めです！　米国の国会議員は、この邪悪な行為が中国だけでなく、他の国にも広がる可能性があることを認識しています。これは阻止しなければなりません」と述べた。

台湾で「法輪功保護法案」を推進

台湾立法委員の許智傑氏は、台湾議会で連署を発起し『台湾法輪功保護法案』を推進している。

許氏は、次のように述べている。「私は多くの学習者が迫害され、生きたまま臓器を摘出された事例を耳にしてきました。中共の権力者たちに長寿を提供するために、人を殺して臓器を盗み出し、巨額の利益を得ているとも聞きます。本当に恥ずべき行為です！」

また「米国下院は『法輪功保護法案』を可決しましたが、世界各国もこれに呼応することを期待しています。私も微力ながら、台湾での『法輪功保護法案』の立法推進に力を注ぐことを誓います」と強調した。

中国人が真・善・忍を尊重すれば中共の存在余地はなくなる

台湾の「迫害されている法輪功学習者を救援する協会」理事長の許凱雄氏は、次のように述べた。「私は真・善・忍の価値観を尊重しており、これは中共の偽・悪・闘という本質と完全に相反しています。もし中国人が皆、真・善・忍の価値観を尊重するようになれば、中共の存在余地はなくなるでしょう。法輪功を保護することは、人々を保護することになります」

「国際平和デー」　ベルギーで反迫害活動

9月21日は、国際平和デー。25年以上続く中共による法輪功への迫害を制止するため、ヨーロッパの学習者が9月20日と21日の2日間、欧州各国に対し行動を起こすようブリュッセルで呼びかけた。

弾圧は迫害の範疇を超えている

ベルギー連邦議会議員ポンティエ氏は、集会で中共による法輪功への迫害を非難した。「私たちは（法輪功への）支持を表明するだけでなく、（中共による）法輪功への弾圧を非難するために来ました。この弾圧は、もはや迫害の範疇を超えています。ジェノサイドと呼んでよいでしょう。法輪功は信仰団体であり、民族ではありませんが、中共政府が用いる手段は100%ジェノサイドです」

臓器収奪は人道に対する罪

中国での臓器移植濫用停止 ETAC国際ネットワークを代表するエルケ・ヴァン・ブランデ氏は、中共の人道に対する罪を非難した。

同氏は、少なくとも20年間、中国政府が良心の囚人から強制的に臓器を摘出し、その過程で犠牲者を殺害しているとの指摘があると述べた。そして中共が法輪功に対して採った方法は「その経済を破綻させ、その名誉を毀損し、その肉体を消滅させる」という絶滅政策であると説明した。

また、2000年以降に中国の臓器移植率が急上昇していることに言及し、2019年に人権弁護士のジェフリー・ナイス卿が主催した民衆法廷が「中国（中共）が長年にわたり、大規模に良心の囚人から臓器を強制的に摘出していることに疑いはない」と結論づけたことを紹介した。

同法廷では「学習者が臓器の一つの供給源であり、おそらくは主要な供給源である」と認定し、これは人道に対する罪に該当するとしている。

欧州議会が法輪功への迫害停止求める決議可決

今年1月、欧州議会は再び法輪功への迫害の停止を求める決議を可決した。この決議では、ドイツ在住の学習者・丁楽斌さんのケースが取り上げられた。丁さんの両親は中国で法輪功を学んでいるという理由で中共に不当に拘禁された。

丁さんは「父を中国の不当拘禁から解放されるよう助けてください」とスピーチした。丁さんの父親・丁元徳さんと母親・馬瑞梅さんは、2023年5月12日に中国の山東省日照市で不当に連行された。

母親は海外からの救助活動により解放されたものの、村で監視下に置かれている。一方、父親は現在も拘禁されている。

【神伝文化】子供に節約を教えた古人

三国志で有名な曹操は、子供の教育に厳しい人でした。曹操が布告した「諸児令」には「息子たちについて、私はどの息子も好きですが、大人になった時に才能がある者だけを重用します」とあります。

また、自分の息子に贅沢をしないように教えるため、言葉で教えるだけでなく、身をもって手本を示しました。日常生活でも、自分の服装は継ぎあてがある場合が多く、夫人の卞（べん）氏は、夫が魏王になった後も、相変わらず布の服装を着て、燈台の下で糸を紡ぎ、布を織っていました。

陶侃（とうかん）は西晋、東晋の武将でした。彼は県の小さな役人として勤めた時、その地位を利用して塩漬けの魚を手に入れ、母親に贈りました。しかし、母親は息子に宛てた手紙で諭しました。「あなたは、官職に就いています。そして公的な立場で手に入れた物を私に贈りましたね。私は、良いとは思いません。かえってあなたのことが心配になりました」。それからというもの、陶侃は、自分の態度に気を配りました。こうして彼は、気高い大官になりました。このような遺風は、彼の曾孫である陶淵明（訳注：東晋・宋の時代の詩人）に、わずかな俸禄のために身を屈することはしないという良い影響を与えました。

唐の太宗も亡くなる前、子孫が贅沢をしないよう、自分が日頃使っている牛の角の櫛など粗末な用品を陵墓に置くようにと命じ、手本を示しました。太宗は、子孫に節約の美徳を保つよう求めたのです。

黄庭堅の輪廻転生

中国の歴史では、輪廻（りんね・命あるものが何度も転生し、人だけでなく動物なども含めた生類として生まれ変わること）の概念が深く人々の心に根付いています。人々は輪廻を信じて疑わず、輪廻で世界を理解・認識し、世界観を形成しました。梁山泊の英雄たちでさえ、首を刎（は）ねられるとき、「頭が落ちたら、茶碗口くらいの傷痕を残すだけだ。20年後にはまた1人の好漢（気性のさっぱりした愛すべき男）になれる」と信じていました。来世でまた好漢になれると信じていたのです。

北宋の詩人・黄庭堅の輪廻

黄庭堅（こう・ていけん、1045～1105年）は、中国北宋時代の詩人です。幼いときから孝子として知られる彼は、よく母の尿瓶を洗い、高官になってからも洗い続けていました。その孝行の美徳が周囲の人々に感動を与えただけでなく、彼は後世の人々に「二十四孝」（中国で後世の範として選ばれた、孝行が特に優れた24人）の一人として選ばれました。彼は、自分の輪廻の物語を詩としても表しました。

昼寝で見た夢

黄庭堅は26歳で科挙に合格し、朝廷から黄州（安徽省・蕪湖市ぶこし）の州知事に任命されました。ある日、彼は昼寝をして夢を見ました。夢の中で、彼は役所を出て、ある村に着きました。遠くから、白髪だらけのおばあさんが家の門の前に置かれている香炉に向かって、自分は知っているとも知らないとも言える名前を呼んでいるのを見ました。彼はそこに近づき、テーブルの上に供えられたセロリをこねた麺を見て、その香りに惹かれ無意識に持ち上げて食べてしまい、そして役所に戻りました。突然、ドアが叩かれる音が聞こえて彼は目が覚め、ようやく夢だと分かりました。夢の世界が本物そっくりで、口の中にまだセロリの香りが残っていますが、ただの夢だと思い、気に留めませんでした。

夢で見たおばあさん

翌日、黄庭堅は昨日とそっくりの夢を見ました。夢の世界の情況や料理の香りは、どれも本物のようでした。不思議に思った彼は役所を出て、夢で見た道に沿って進み、一体何が起きたのか確かめようとしました。ある村に着いた時、景色がぼんやりとしていて、まるで故郷に戻ったようでした。まっすぐにある家に向かい、ドアをノックして入りました。そこで目にしたのは、夢で見たおばあさんでした。彼は挨拶し、おばあさんになぜドアの前で人に麺を食べに来るように呼んだのかを聞きました。おばあさんは、こう答えました。「昨日は娘の命日でした。生前はセロリをこねた麺が好きだったので、私はドアの前で彼女に帰って来て麺を食べるように呼んだのです。毎年こうしています」

黄庭堅は驚いて「お嬢さんは、いつ亡くなられたのですか？」と聞きました。おばあさんは「26年前です」と答えました。黄庭堅は、今年でちょうど26歳で、昨日が誕生日でした。そこで、お嬢さんの生前のことや家の状況を尋ねました。おばあさんは「私の一人娘で、生前は本を好んで読み、佛を信じて精進料理しか口にしませんでした。とても親孝行な娘でしたが、どうしても嫁ぎたがりませんでした。そして来生では男性として生まれ、文学者になりたいと願を立てました。26歳の時に娘は病気にかかり、死ぬ直前、私に会いにまた帰って来ると言いました」と答えました。黄庭堅は大いに驚き、「彼女の寝室はどこですか？　見てもよろしいでしょうか？」と聞きました。おばあさんは、ある古い部屋を指差して「この一間です。ご自分でご覧ください」と答えました。

娘の部屋で

部屋に入った黄庭堅は、四方を見回し、ベッドやテーブル、椅子にひとしお親しみを感じました。壁沿いに鍵がかかった大きな箱があるのを見て、おばあさんに中身を尋ねました。おばあさんは「娘が生前読んでいた本です」と涙を拭きながら答えました。「開けて見ても良いですか？」と尋ねると、「鍵は娘が保管していたので、ずっと開けることができません」と答えました。黄色堅は、しばらく思案すると突然鍵の保管場所が分かったので、おばあさんに探してもらいました。箱を開けて見ると、中にはたくさんの原稿がありました。読んでみた黄色堅は、愕然としました。彼が今まで受けてきた試験の回答が、全部ここにあり、しかも一文字も違っていませんでした。

思い出した前世

しばらく深く考え込んだ黄庭堅は、はっと悟り、自分が生前女性であったこと、ここが前生の家で、おばあさんが自分の実母だったと分かりました。黄庭堅は跪いて叩頭し、涙を浮かべながら、自分が一人娘の生まれ変わりだと告げました。世を隔てて顔を合わせた母と娘は、悲喜こもごもでした。

役所に帰った後、黄庭堅は人を遣わしておばあさんを迎え、生母のように孝行を捧げ、一生孝養を尽くしました。

写　真　特　集

①

④

②

⑤

③

⑥

① クイーンズランド州トゥーンバで9月21日、第75回トゥーンバ・カーニバル・フラワーズが開催。パレードに参加した法輪功チーム

②③ 9月7日、イングランド北部のウェムのカーニバルに参加。多くの人々が法輪功のブースを訪れ迫害に反対して署名

④ シカゴのチャイナタウンで9月14日にパレード。迫害停止を呼びかけた

⑤ 9月21日と22日にカナダのケベック州ビクトリアビルで開催された第15回平和フェスティバル。法輪功について尋ねる来場者

⑥ スウェーデンの首都ストックホルム（9月）。ノーベル博物館前のブースで法輪功への迫害を知った人々は、反迫害を支持して署名

『明慧インターナショナル・30周年特別号』

法輪功が1992年に伝えだされてから、世界130カ国、１億人に愛好されている現在までの状況を紹介。

また、迫害制止を求めた勇気ある行動、世界各地からの声援などを掲載。

ＰＤＦファイルの
無料ダウンロード

明慧ダイジェスト発行元

明慧（ミンフイ）ネット
https://jp.minghui.org/
メール：editor@minghui.jp

明慧ネット日本語版は、2001年7月に開設しました。
法輪功について紹介、世界各国の活動、学んだ人たちの体験談などを掲載しています。
また、中国における迫害の状況を報告しています。